

平成14年度
分科会活動報告
&
パネルディスカッション
ー セキュリティ維持とコストダウンを
いかにに実現するか ー

2003年7月8日
PCネットワークの管理・活用を考える会
事務局

4つの分科会を開催

■ IT資産・ソフトウェア管理分科会(全6回)

- IT資産管理が、大幅なコスト削減を可能にし経営に直接貢献することを研究する。
- IT管理ツールで収集された情報の有効活用を研究する。
- 刻々と変化する企業情報システムに及ぼされるリスクに対応した、新たなIT資産管理を研究する。

■ 情報モラル・セキュリティ分科会(全4回)

- リスクを軽減するための情報モラル向上について研究する。
- リスクとそれを防ぐために費やすコストについて研究する。
- 企業内への情報公開基準や流出防止策について研究する。
- セキュリティポリシーを定着促進する方法を研究する。

■ ネットワーク管理分科会(全3回)

- ネットワークの高速化と費用対効果について研究する。
- ネットワークの機器やトラフィックの管理について研究する。

■ Linux分科会(全3回)

- サーバ利用の事例を研究する。
- WEBやメールに加え、RDBやLDAPの利用事例を検証し、実現への課題を研究する。
- StarOfficeなどのアプリケーションの利用検証を含めて、クライアントOSとしての利用の可能性を研究する。

IT資産・ソフトウェア管理分科会

座長：山司澄夫 様

ソニーテクノクリエイト(株)

プロフェッショナルサービス部門

ビジネス開発戦略センター 部長付

IT資産・ソフトウェア管理分科会

■ 第一回（出席者数:32名）

「クライアントPCのトラブル対応とバックアップの必要性」

講演者: エヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社 ネットワークセキュリティ事業部 技術課長 小松信治 様

■ 第二回（出席者:32名）

「収集したIT資産情報をどう活用するか」

講演者: 東芝情報システムプロダクツ(株) カスタマコンタクトセンター センタ長 富士道治 様

■ 第三回（出席者:20名）

「クライアントOS変更にもなう環境移行」

講演者: クオリティ株式会社 企画開発本部 商品企画部 百武達也

■ 第四回（出席者:28名）

「ツールで収集したソフトウェアインベントリの活用方法について」

講演者: 株式会社日立情報システムズ 事業企画開発本部 情報インフラ開発センタ 吉澤満 センタ長 様

■ 第五回（出席者:20名）

「新種のウイルスや新たな脅威に対するクライアントPCの構成管理」

講演者: 株式会社アークン 代表取締役 渡部 章 様

■ 第六回（出席者:17名）

「総括！今求められる”IT資産管理”」

TOPIC

- ・「PC資産情報を公開する」というコンセプトが勉強になった(第2回)
- ・ソフトウェアインベントリを分析する辞書DBが欲しい(第2・4回)
- ・情報収集制度の向上施策(第2回)
 - 社員とPC貸与に関する誓約書の締結
 - ツールによる運用強化
- ・皆同じ悩みを持っていてよかった(4回)
- ・ツールによる作業支援は中途半端に作業を残すのであれば、必要なし(1・3回)
- ・どこまで管理項目は増えるのか？また仕事が増える(5回)

- ・どこまでクライアントに管理を強制できるのか？
 - ・ツールは管理者の作業をどこまで削減できるのか？
(ツールにどこまで期待してよいのか？)
 - ・企業情報システムへの脅威(ウイルス・ハッキング等)が
拡大する中、我々は管理をすべきなのか？
- など、参加者間で運用事例、今の課題を発表・意見交換することにより、自社のベンチマークを実施されていたという印象を受けました。

情報モラル・セキュリティ分科会

座長：鶴田一男 様

パイオニア株式会社
連結情報戦略部 参事

アドバイザー：丸重裕子 様
日本セキュリティ・マネジメント学会 理事

情報モラル・セキュリティ分科会

- 第一回（出席者数:23名）
「情報漏洩防止策について」
- 第二回（出席者:23名）
「電子文書の取り扱い規定」
- 第三回（出席者:19名）
「情報セキュリティの面からみるIT資産管理のあり方」
- 第四回（出席者:13名）
「セキュリティポリシーを元にしたIT資産の維持管理細則」

成果物①:「電子文書取扱細則」

- | | |
|-----------------------|--------------------------------------|
| 第1条 定義 | 第12条 社内ユーザへの電子文書の受け渡し |
| 第2条 電子文書取扱細則の位置付け | 第13条 社外ユーザへの電子文書の受け渡し |
| 第3条 電子文書用途別登録先 | 第14条 電子文書のバックアップとリストア |
| 第4条 電子文書の管理者 | 第15条 電子文書の印刷 |
| 第5条 電子文書の保管責任者 | 第16条 電子文書の持ち出し |
| 第6条 電子文書の登録 | 第17条 電子文書のローカルディスクへの保存 |
| 第7条 電子文書のアクセス制御 | 第18条 電子文書の内容のコピーとペースト |
| 第8条 情報系業務システムへの登録方法 | 第19条 クライアントマシン(ローカルディスク)上
の文書の取扱い |
| 第9条 ファイルサーバシステムへの登録方法 | 第20条 電子化された法定文書の保管と保存 |
| 第10条 紙文書等管理システムへの登録方法 | 第21条 電子文書を保持した媒体の廃棄 |
| 第11条 Webサーバシステムへの登録方法 | |

参加企業内においては、セキュリティポリシーの作成・運用を実施、あるいは着手されている企業は多かったです。(アンケート結果参照)
しかしながら、プロシージャのレベルで上手くポリシーが機能しているか？
という点については不安感・未達成感を持つ参加者が多かったという印象もあり。

成果物②:「IT資産管理細則」

第1章 総則

第1条(目的)

第2条(適用範囲)

第3条(定義)

第4条(管理枠組み)

第2章 調達・導入

第5条(製品の選定)

第6条(標準製品リストの作成)

第7条(標準製品の調達／導入)

第8条(標準外製品の扱い)

第9条(レンタル、リース契約)

第3章 設置・保管・持ち出し

第10条(設置・保管)

第11条(持ち出し)

第4章 取扱い、利用

第12条(メディアの接続)

第13条(共有フォルダの利用)

第14条(ウイルス対策ソフトウェアの常駐)

第15条(パッチの適用)

第16条(PC等の保守・修理)

第17条(従業員の異動に伴うPC等の移設)

第5章 再利用・廃棄

第18条(使用停止)

第19条(再利用)

第20条(廃棄)

第6章 セキュリティ維持の確認

第21条(機材の設置・保管)

第22条(システム設定の状況)

第23条(ソフトウェアのインストール状況)

第24条(パッチおよびセキュリティに関わる設定の適用)

ネットワーク管理分科会

座長： 宮腰寿之 様

株式会社リコー

IT/S本部・IT/S技術センター

技術2グループ 課長代理技師

ネットワーク管理分科会

■ 第一回（出席者数：19名）

「外出先からでも仕事がしたい！その時セキュリティは??」

講演者：株式会社リコー IT/S本部・IT/S技術センター 技術2グループ
課長代理技師 宮腰寿之 様

■ 第二回（出席者：17名）

「IPアドレス管理ツール」による管理工数削減

講演者：株式会社 網屋 営業部 マネージャー 井上吉朗 様

■ 第三回（出席者：13名）

「WANの最新技術動向と構築事例」

講演者：富士通株式会社 システムサポート本部 ネットワークサポート統括部
IDCシステム部 担当課長 藤森 孝 様

TOPIC

- ・個人のPCを会社に接続させてよいのか？(第1回)
- ・未知のPCの管理・規制の実現に関心あり(第1・2回)
- ・課金制度に興味あり(第1回)
- ・管理工数削減のためにDHCPへ移行したいが、セキュリティが不安(第2回)
- ・固定IPとDHCPの共存管理の実現手法(第2回)
- ・IP電話への移行投資効果についての情報交換(第3回)
- ・今後の回線サービスの選択方法についての情報交換(第4回)

業種、業務形態、管理者・クライアントのスキル、会社のIT投資意欲等の違いにより、企業のネットワーク環境は大きく異なります。
過去ご苦労されたこと、今の課題を参加者間で共有し、業界紙上にはない「生」の情報交換を実施。実りある意見交換を毎回実施しております。

Linux分科会

座長：柿崎敦司 様

HOYA株式会社

エレクトロニクス部門 管理部 情報システム
管理室 ITグループ

アドバイザー：中尾貴光 様

ターボリナックス株式会社 営業推進部 マネージャ

Linux分科会

- 第一回（出席者数:13名）
「現在の社内システムをLinuxに置き換えられるのか？」
～導入前コンサルティング～
- 第二回（出席者:19名）
「現在の社内システムをLinuxに置き換えられるのか？II」
～コストシミュレーション:WindowsクライアントをLinuxクライアントへ～
- 第三回（出席者:11名）
「運用コストの削減を目的としたLinuxクライアントシステムのご提案」

TOPIC

- ・仮想企業「ABCDエンジニアリング」が、WindowsクライアントをLinuxクライアントへ置き換える検討を開始。
OS、Officeからグループウェア、ワークソフト等、現在のOA系WindowsクライアントをLinuxに置き換えた場合のコストシミュレーションを実施しました。
- ・初期投資のみならず「維持費」にもフォーカスをあて、Linuxクライアントの投資効果についてディスカッション。
- ・MS-Officeの互換ソフト(StarSuite等)は機能的にはいいところまで行っているが、100%互換ではない、Accessに相当するものがないという意見多数。
- ・PCにWindowsOSがバンドルされている現状では、Linuxクライアント移行によるコストメリットは生じにくい。Windows資産を継承するのではなく、Linuxの特性を生かした導入や運用をおこなうことでTCO削減が可能なのではないか。

Linuxをクライアント利用という視点でWindowsと比較すると、機能や使用感はWindowsと遜色ないレベルに来ている。しかし現有Windows資産の継承、対外的な（特に取引先）データ互換などの問題が残る。Linuxへの追い風が吹き始めている現在、これらの問題をどのように乗り越えていくかが鍵となる。

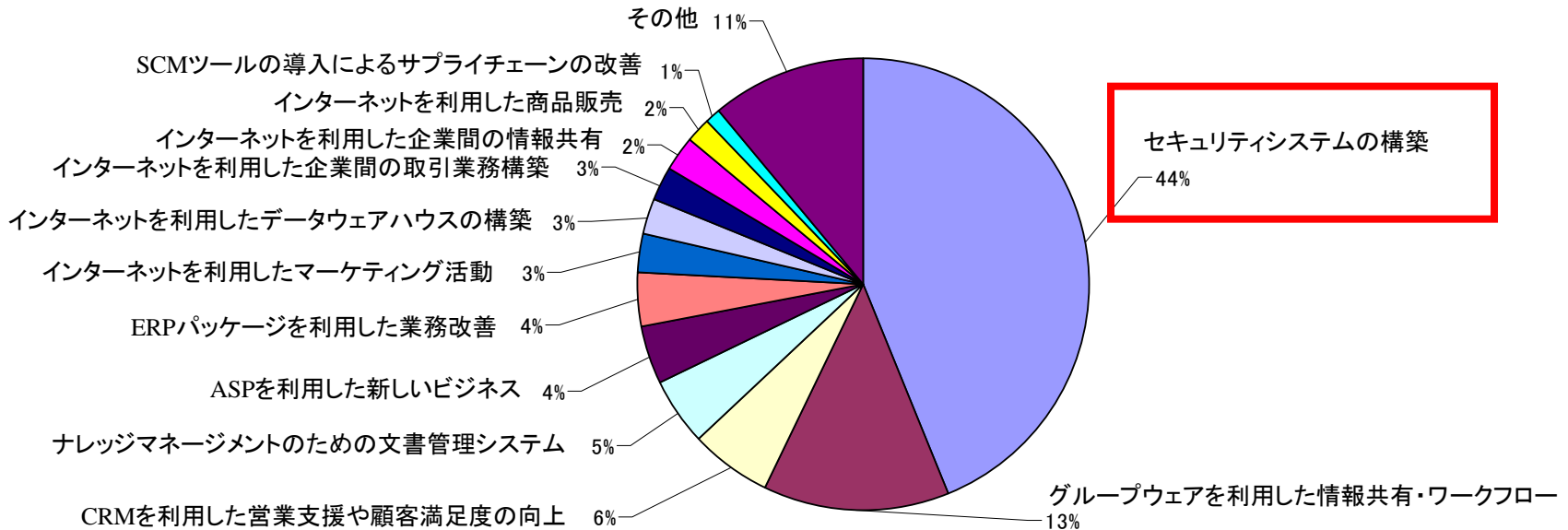
分科会座長パネルディスカッション

セキュリティ維持 と コストダウンを いかにに実現するか

- | | | |
|-----------------------|---------------------------|--------|
| [モデレータ] | 株式会社日経BP コンピュータ局 コンテンツ開発長 | 田中克己 氏 |
| [IT資産・ソフト管理分科会座長] | ソニーテクノクリエイト(株) | 山司澄夫 氏 |
| [情報モラル・セキュリティ分科会座長] | パイオニア株式会社 | 鶴田一男 氏 |
| [ネットワーク管理分科会座長] | 株式会社リコー | 宮腰寿之 氏 |
| [Linux分科会座長] | HOYA株式会社 | 柿崎敦司 氏 |

**「セキュリティ」と
「コストダウン」
の両立は無理。**

今後のIT投資はどの項目を最も重点的に行われますか？



	2000年	2001年	2002年	2003年	
セキュリティシステムの構築	14%	11%	22%	44%	210
グループウェアを利用した情報共有・ワークフロー	20%	24%	17%	13%	64
CRMを利用した営業支援や顧客満足度の向上	6%	9%	9%	6%	28
ナレッジマネジメントのための文書管理システム	6%	9%	8%	5%	23
ASPを利用した新しいビジネス	9%	5%	4%	4%	19
ERPパッケージを利用した業務改善	4%	7%	7%	4%	19
インターネットを利用したマーケティング活動	3%	3%	2%	3%	13
イントラネットを利用したデータウェアハウスの構築	6%	8%	6%	3%	13
インターネットを利用した企業間の取引業務構築	11%	6%	6%	3%	12
インターネットを利用した企業間の情報共有	5%	3%	5%	2%	11
インターネットを利用した商品販売	4%	3%	2%	2%	9
SCMツールの導入によるサプライチェーンの改善	3%	4%	3%	1%	5
その他	9%	8%	8%	11%	53

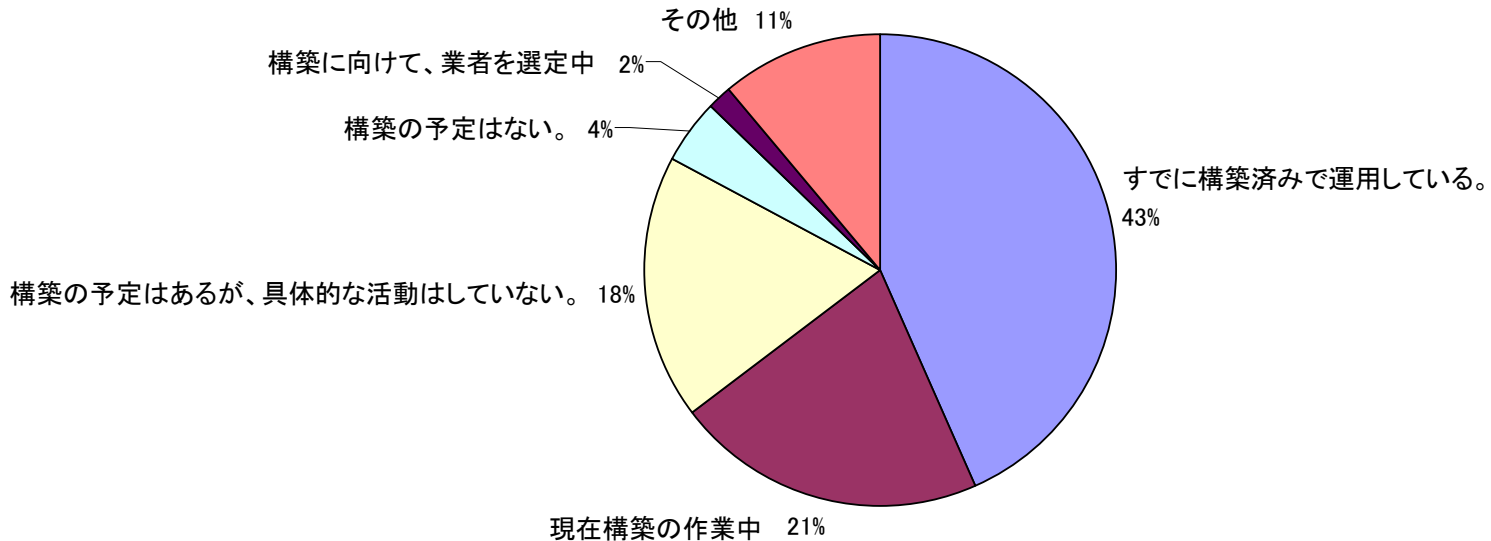
**「セキュリティ」は
「保険」である。**

「守るべきものは 何なのか？」

**「セキュリティ」とは、
「企業文化」である。**

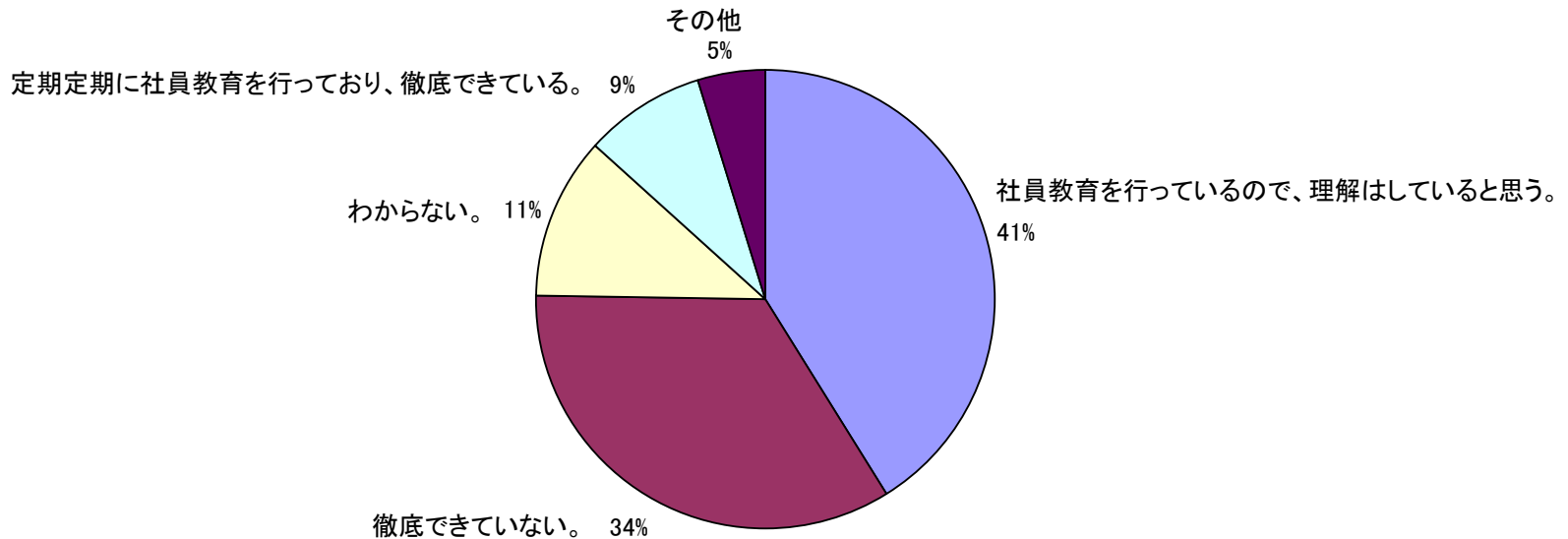
誰が決めるのか？

セキュリティポリシーの構築をされていますか？



	2000年	2001年	2002年	2003年	
すでに構築済みで運用している。	29%	28%	30%	43%	205
現在構築の作業中です。	23%	24%	26%	21%	101
構築の予定はあるが、具体的な活動はしていない。	26%	25%	27%	18%	85
構築の予定はない。	7%	7%	4%	4%	21
構築に向けて、業者を選定中	4%	3%	2%	2%	9
その他	11%	12%	11%	11%	52

エンドユーザに、セキュリティ対策や情報モラル教育は徹底できていますか？



	2000年	2001年	2002年	2003年	
社員教育を行っているので、理解はしていると思う。	-	-	37%	41%	197
徹底できていない。	-	-	41%	34%	163
わからない。	-	-	10%	11%	55
定期的に社員教育を行っており、徹底できている。	-	-	9%	9%	41
その他	-	-	4%	5%	23

**情報システム部門は
変わらなければならない。**

平成15年度分科会活動計画

■ IT資産・ソフトウェア管理分科会

- IT資産管理が、大幅なコスト削減を可能にし経営に直接貢献することを研究する。
- IT管理ツールで収集された情報の有効活用を研究する。
- 刻々と変化する企業情報システムに及ぼされるリスクに対応した、新たなIT資産管理を研究する。

■ 情報モラル・セキュリティ分科会

- 個人情報保護するための対策について研究する
- 情報モラルを向上させるためのユーザ意識改革について研究する
- 現在の脅威について再度検証する

■ ネットワーク管理分科会

- ネットワークの高速化と費用対効果について研究する。
- ネットワークの機器やトラフィックの管理について研究する。

■ オープンソース分科会

- OpenOfficeの企業利用の可能性について研究する
- その他オープンソースソフトウェアの企業利用の可能性について研究する